

理事長便り 江口貴博

私たち AMDA 兵庫は 1998 年の設立以来、阪神淡路大震災をきっかけにできた AMDA ネパール子ども病院(ネパール名、シッダールタ母子専門病院)への支援を中心に活動して参りました。そして、正式な AMDA の県支部を経て、2014 年 4 月に改めて本部から独立、同時に AMDA ネパール子ども病院の支援全般について、AMDA 兵庫が主体となって取り組むことになりました。

皆様の温かいご支援によりまして、ネパール子ども病院では開院以来 45 万人を超える母子が病院を訪れ、4 万人もの赤ちゃんが誕生しました。その間、ネパールの乳幼児死亡率は半分以上となり、地域に無くてはならない病院として機能しています。さらに、2013 年には 3 つ目の病棟である周産期病棟が完成し、乳幼児の死亡率低下のみならず、新生児と妊産婦の死亡率低下にも取り組んでいます。また 2014 年 1 月 17 日には AMDA 兵庫が事業主体となって患者家族棟をオープンし、患者家族の取り巻く環境整備にも支援を広げています。

そして、私たちの活動のもう一つの大きな柱は、災害医療支援活動です。阪神淡路大震災時の災害医療の経験から、AMDA の理念である「困った時はお互いさま」とともに「阪神淡路大震災のお礼をしよう」というキャッチフレーズの元、東日本大震災においても翌日から現地に医師 2 人を派遣し、その後も宮城県仙台市や岩手県釜石市、岩手県大槌町に医師、看護師、助産師、薬剤師、検査技師などを派遣してきました。また、副理事長である小倉医師が宮城県石巻市の雄勝診療所所長として赴任したのをきっかけに、毎年雄勝町を訪ねて現地の方々のメンタルケアやヘルスケアを行い、交流とともに支援活動を継続しています。そしてそれらの経験を生かし、2015 年 4 月 25 日に発生したネパール大地震においても 6 月に医師と看護師を派遣し、AMDA ネパール子ども病院のスタッフとともに、震源地に近いネパールの山岳地帯ゴルカ郡で活動を行いました。その様子は、読売テレビのウエークアッププラスで取り上げられ、また記録 DVD「救える命」を製作して広く活動を紹介しています。

私たちは、これからも継続してネパールの医療や災害医療を中心に活動を行ってまいります。引き続きご支援下さいますよう、どうぞよろしくお願ひ致します。

= AMDA 兵庫活動記録【平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日】 =

平成 27 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日	兵庫県支部写真展開催 一兵庫医療大学地域連携室に於いて(桂木、藤本)
平成 27 年 5 月 4 日/5 日(祝)	アースデイ神戸 出展(江口、小倉、原田、河田、藤本、神女クラブ井原、神女クラブ余頃)
平成 27 年 5 月 10 日	ネパール大地震支援調整会議、記者会見アムダ本部(岡山)にて(江口)
平成 27 年 6 月 14 日～21 日	ネパール地震支援活動(江口、相羽、横山(読売テレビ))
平成 27 年 7 月 28 日	兵庫県災害救急医療システム運営協議会一兵庫県災害医療センター(江口)
平成 27 年 9 月 12 日	第 2 回 AMDA 南海地震トラフ対応プログラム調整会議一岡山県総社市(江口)
平成 27 年 10 月 30 日～11 月 2 日	東日本母子支援活動 雄勝訪問 ーヨガ、お茶っこ、ビンゴゲーム(江口、小倉、桶川、相羽、河田、藤本、神女クラブ井原、神女クラブ余頃)
平成 27 年 11 月 23 日	すきっぷフェスタ出展(早瀬、藤本)
平成 27 年 秋	HP・FB 開始

= ご寄付(敬称略)【平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日】 =

大阪ガスともしびクラブ、神戸市薬剤師会、東京渋谷ライオンズクラブ、ダ・カーポ音楽事務所、福田とみかず後援会総連合会、ダカーポの会、さわやかサロン・ダカーポ、藍の都脳神経外科病院、水の都記念病院、株式会社メイ、だるま堂薬局、多聞豊中脳神経外科クリニック、共立さわらぎ産婦人科、折野産婦人科、折野一郎、岩村恵美、松宮千枝、島田義一、榎原まさとし、田村弘子、納昌代、井上京子、土井真理子、岸路悦子

◇会員の募集

活動にご賛同いただける方は、ご協力をお願いいたします。

年会費	
正会員	: 年会費 10,000 円
賛助会員	: 年会費 1 口 3,000 円(1 口以上)
学生会員	: 年会費 3,000 円

◇AMDA 兵庫の活動に参加して下さい

AMDA 兵庫では前述のプロジェクトに精力的に取り組んでいます。現在、これらの活動に賛同して下さる会員を募っております。

月に一度の定例会を開いております。AMDA 兵庫にご興味のある方は、ぜひ一度ご参加ください。

	AMDA 兵庫	
	〒673-0896	定例会 毎月第一土曜日
	明石市日富美町 5-16 3 階にじ作業所内	毎日新聞社神戸支局 3 階会議室にて
	E-mail: amdahyogo@yahoo.co.jp	HP: http://amda-hyogo.com

AMDA 兵庫だより



2015. 4 ~ 2016. 3 Vol.6

ネパール



ネパール震災医療支援活動 理事長 江口 貴博

2015 年 4 月 25 日に発生したネパール大地震では、8800 人を超える人が亡くなられ、その後も震災関連死の増加が危惧された。AMDA 兵庫は、阪神大震災や東日本大震災の現場において災害緊急医療支援の経験があり、その経験を今回のネパール大地震において生かそうと、2015 年 6 月にネパール震災医療支援ミッションを行った。特に今回は、派遣医師が脳神経外科医だったこともあり、地震の時の頭部外傷後 1、2 ヶ月に多く発生する慢性硬膜下血腫という病気の啓発、手術指導に重点を置いて活動した。



最初にカトマンズ市内のテント村や身障者たちが暮らす避難所を巡回し、地震後の衛生状態の確認やメンタルケアなどを行った。

そして、トリバン大学病院を訪問し、地震直後の脳神経外科手術の状況を確認、また慢性硬膜下血腫の発生状況を確認した。この病院では脳神経外科専門医が 3 人いて積極的な治療がなされており、カトマンズでの慢性硬膜下血腫は十分治療がなされるものと思われた。



次にブトワールに移動し、AMDA ネパール子ども病院の被災状況を確認したが、安藤雄雄氏の設計による日本式の頑丈な建物ゆえに、まったくと言っていいほど損害はなかった。そして特記すべきは、ネパール大地震発生翌日に、こども病院の若手の医師、看護師、スタッフらが自主的に緊急医療支援チームを編成し、震源地に近い山岳地帯ゴルカ郡で活躍、外傷や内科疾患を中心に 600 人以上の診療に

あたったことである。この病院が阪神大震災の復興のお礼としてできた病院であることや、AMDA が災害医療の NPO であることで、そのスタッフに AMDA スピリッツが息づいていることが嬉しかった。

その第 4 次医療支援隊として、江口と相羽看護師、ビノー院長らでゴルカ郡に向かった。ゴルカ郡病院も視察したが、病院建物は大きく傷み、テントの仮設病棟で産科を中心とした医療が展開されていた。山あいのテントや避難所も視察したが、高地高温でのテント生活は劣悪な環



境で、熱中症や胃腸感染症などで亡くなる人もいたという。慢性硬膜下血腫の患者を見つけることはなかったが、ゴルカ郡病院の医師に、慢性硬膜下血腫の発生

に留意するように啓発した。ゴルカからの帰り道、交通事故に遭遇し頭から激しく血を流す男性の救急医療に携わり、脳神経外科医として、止血処置、頭部 CT での診断を行った後、バイラワ大学の研修医たちに、CT 読影のレクチャーを行った。

翌日、子ども病院のスタッフを集めて震災関連死についての講義を行い、また慢性硬膜下血腫の手術法について、江口が執刀したビデオなどを用いて具体的に治療法を説明し、資料をスタッフに託した。そして、慢性硬膜下血腫に必要なハンドドリルを 2 セット寄贈した。今後このハンドドリルで、慢性硬膜下血腫の患者を救えるとともに、小児の水頭症の治療、神経内視鏡治療などへの応用も期待された。

ネパール大地震では多くの方が亡くなって、大変な不幸な出来事であるが、それを不幸だけに終わらせずに、何か少しでもネパールの医療の進化につながることを願って、今回の災害医療支援活動を終了した。

2015年4月25日にネパール中部にマグニチュード7.8の大地震が襲い、さらには5月12日7.3の余震発生にて8800人を超える死者を出した。そのため200万人以上の住民が避難生活を余儀なくされ、またネパールの学校18289校ある中の7532校が被災した。AMDA兵庫は、阪神大震災を機にネパールとのつながりがあり、AMDAネパール子ども病院への支援活動していたことから震災支援ミッションのため、2015年6月ネパールへ向かいました。



ネパールの首都カトマンズを始め、観光客が集中するタメル地区、ネパールの古都パタンにある国立動物園前の運動場で仮設避難している身障者の方々、震源地ゴルカ郡に近いゴルカリスチュリック病院やその周辺での避難生活されているの方々への健康状態やメンタルケアを含めて一人一人に時間をかけて話しを聞くことにしました。

テントでの生活していた人たちは、子供から高齢者まで助け合いの精神が発揮されていました。しかし、震災により家や家族を亡くし、テント生活を余儀なくされ、その生活の中で子供や高齢者を感染症や栄養不良により亡くした方もいました。

話しを聞いている中には、涙ながらに「胸が苦しい。痛い。」と胸や頭に手を当てながら訴える姿も多くみられ、私は胸が締め付けられる思いでした。訪問したトリブバン大学病院では、震災後、家族に連れられて山間部より歩きと車で5時間かけ来られた高齢者の方がいました。無事に手術を終



すきっぷフェスタ 2015 に 出店しました

2015年11月21日(土)、デュオ神戸で開催された『すきっぷフェスタ』に参加しました。『すきっぷフェスタ』は、神戸新聞社が兵庫県内の子育て支援団体や大学の専門家と連携して運営する神戸新聞子育て

え、退院を待つ状態ではありましたが、その高齢者からも胸の痛みの訴えがあり、今後多くの人の震災関連に伴うPTSDへの悪化が懸念されました。トリブバン大学病院では、カウンセリング室の設置やホットラインにて24時間対応を行なっているとのことであり、一人でも多くの方が



受けられればと願うばかりでした。AMDAネパール子ども病院では、震災後すぐに医師や看護師が薬などを持参し山道を5時間ほど歩いて震源地に近いゴルカ郡へ緊急医療を行なったことを聞き、江口先生とAMDAネパール子ども病院のピノ一院長と共にゴルカ郡へ向かいました。テントでの生活は猛暑により外に出れず、テント内でも風がなく熱中症にかかり亡くなる方も多くいました。私は持参した日本製の扇子を配り、子供達とは紙飛行機と一緒に作り飛ばして遊びました。些細なことしかできませんでしたが、今後もネパールの人々が一人でも笑顔を取り戻せるようAMDA兵庫は支援を続けていきたいと思えます。また、一人でも多くの方々の支援を願っています。

アースデイ神戸 2015 に 出店しました

今年も5月4日(月祝)、5日(火祝)と、みなとの森公園(震災復興記念公園)でネパールグッズ販売やAMDA兵庫活動報告を行いました。

4月25日に発生したネパール大地震の近況をお知らせし、ネパール中部地震緊急支援募金箱を設置しました。

多くの方から募金をいただき、集まった浄財はネパール大地震緊急支援に使われました。ありがとうございました。



てクラブ「すきっぷ」の創設記念イベントとして開催され、多くの家族連れでにぎわいました。私たちのブースでは、ネパールグッズ販売と2月のネパール活動報告を行いました。



東日本支援



東日本大震災から4年8か月、雄勝町の今

2015年10月31日(土)～11月2日(月)、宮城県石巻市雄勝町の皆さんに会いに今年も行ってきました。

名振地区は、最初に高台移転を決定した地区。前日に復興公営住宅引き渡し説明会があり、ひとりひとりに鍵が手渡され、各世帯が実際に住宅に入って見学をする世帯もあったようだった。新しい家の鍵をもらって部屋を見たら、



明るい気持ちになった、我慢に我慢を重ねて先が見えない気持ちが前向きになってきた、自立して生活したいと住民の皆さんたちは話されており、これからの新しい生活への希望を感じているようであった。2016年から仮設住宅は4件のみとなり、2018年には全員が引越す予定。仮設住宅を出るといふ復興の前進を前にして、震災時を振り返り、震災時に名振コミュニティセンターで200人以上が過ごした話や、震災の体験を色々な経験ができたと客観的に見られるようになったと話される方もいた。年々人が減っており、今後復興公営住宅に移る住民や町中に住まいを移す住民がいるなど、コミュニティがまた変化しようとしている。住民同士は家がバラバラになっても集まろうねと言い合い、絆の強さを感じた。

大須地区は、震災時に家が無事で自宅で住まわれている方が多く、復興が早い。住民のみなさんの力で大須集会所を新しく建て替えたばかりで、住民のみなさん仲が良くさらに賑わいを見せていた。石巻市の町中に比べ、雄勝町の復興が遅れており、若い人がつける仕事も少なく復興の早い町中に出ていってしまうので、若者が仕事につけるような雄勝町へなって欲しいと住民の方が話されていた。買い物なども移動販売車が週数回来るが、不便である。



荒地区は、地区住民のほとんどが親戚関係。9月の東日本大豪雨の影響で浸水被害に遭い2日間孤立した。住民の皆さんは日頃から災害時の備えをしていたので食料などは間に合ったと言い、家の周囲が浸水した時の携帯写真を見せてくださった。この日の午前中に集会所の建て替えの話合いがあり、床下を剥がし流れ込んだ土砂の確認作業があったとのことだった。住民が減り、集会所で集まることなく、1年ぶりくらいにみんなで集まったと話される。

羽坂地区は、モリウミアス(旧桑浜小学校)で先日運動会を行ったようで、子どもの頃に通った小学校が残って嬉しいと住民の皆さんが話されていた。自治会長さんも、モリウミアスの海のプログラム講師を担当して、子どもたちへの漁業体験に協力している。新しく完成した出来たモリウミアスが、地域活性と地元の若者の就労支援、世代間交流の場となっており、今後の発展がますます期待されている。

立浜地区は、復興団地建設のため掘り起こした場所から土器が出たため、住宅を建てるための土地の準備が遅れ、

2016年復興団地建設が始まる。来年には、新しい集会所が出来る予定となっている。かなり広い集会所となるよ

うで、皆さん楽しみにしていた。住民の方が仮設住宅にみんな



で談話するためのベンチを作り、その様子が新聞記事に取り上げられた。立浜は漁業が豊かな土地なので、公営住宅ではなく自力で住宅を建てる人が多い。年齢のことを考え、家は建てず公営住宅に入る方もいる。立浜の漁業は新しい漁船をどんどん増やしているようで、明るい兆しが感じられた。

※この活動は、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(ボラサポ)の助成を受けました。

AMDA 兵庫写真展継続中！！

兵庫医療大学(ポートアイランド)の地域連携室でAMDA兵庫の活動を写真と共に紹介しています。地域連携室の閉館時間は、平日の9:30～16:00。どなたでもお越しいただけます。

多数のご来場をお待ちしております。

